様式第２号

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議の名称</td><td colspan="3">平成２７年度　第１回豊中市図書館協議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２７年（２０１５年）　７月２日（木）１５時００分～１７時００分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>豊中市立岡町図書館　集会室</td><td>公開の可否</td><td>㊀・不可・一部不可</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td>読書振興課　岡町図書館</td><td>傍聴者数</td><td>５人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開しなかった理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委員</td><td colspan="3">舟岡　直子　　日下部　雅彦　　斉藤　雅美　　天瀬　惠子　　松田　美和子
岸本　岳文　　渥美　公秀　　瀬戸口　誠　　樋口　名子</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">吉田事務局長　小川次長　北風岡町図書館長　須藤庄内図書館長
虎杖千里図書館長　松井野畑図書館長　島津岡町図書館副主幹
山根岡町図書館副館長　永島岡町図書館主査</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議題</td><td colspan="3">1　「市民サポーターについて」

2　その他</td></tr>
<tr><td colspan="2">審議等の概要
（主な発言要旨）</td><td colspan="3">別紙のとおり</td></tr>
</table>

平成２７年度（２０１５年度）図書館協議会

日時：平成２７年（２０１５年）７月２日（木）１５時～１７時
場所：豊中市立岡町図書館　３階集会室
出席者：（敬称略）
　委　員　　舟岡　日下部　斉藤　天瀬　松田　岸本（委員長）　渥美　瀬戸口　樋口
　事務局　　吉田　小川　北風　須藤　虎杖　松井　島津　山根　永島

開 会
　資料確認
　委員紹介
　事務局職員の紹介
　教育委員会事務局吉田事務局長よりあいさつ
　委員長及び委員長職務代理者の選任について
　＊吉田事務局長を仮委員長として、委員長の選任を行った。

●事務局
　図書館条例第６条第２項で、協議会の委員長は委員が協議して選出することになっている。また、同条第５項で委員長に事故ある時は、あらかじめその指定する委員がその職務を代理することになっている。まず委員長の選任をしていただき、次に委員長から同職務代理者を指名していただきたい。なお、委員長の任期は委員の任期によると定められており、平成２９年６月３０日までとなる。

●仮委員長
　それでは委員長の選任について、ご意見をいただきたい。自薦、他薦いずれでもかまわない。

●委員
　市立図書館に造詣の深い岸本委員を推薦する。

●仮委員長

　他にご意見は？

無いようですので、岸本委員を委員長に選任するということで異議はありませんか？

（一同拍手をもって承認）

　それでは、岸本委員が委員長に選出された。委員長席にお移りいただき、ご挨拶と委員長職務代理者の指名、議事の進行をお願いしたい。

●委員長

　岸本です。前回、２年前より図書館協議会と関わっている。その感想としては、この協議会で様々な議論を深めることができ楽しい印象を持っていて、あわせて熱心な市民の方々が図書館に強く関心を持っていただいていることをうれしく感じるとともに、ある意味緊張を覚えるが、そういった方々に支えられていることを実感する場になっている。是非今期もそういった形で議論を深めていきたい。

　それでは、委員長職務代理者には、渥美委員にお願いしたいが、いかがでしょうか。

（一同拍手をもって承認）

●委員長

　それではお手元の次第に沿って議事を進めさせていただくが、ここで図書館協議会の運営方法について、委員の皆様にご了承いただきたい。図書館協議会の運営方法として、豊中市では原則的に会議を公開しており、傍聴については１０人を定員にしているが、ご希望の方が定員を超えた場合の傍聴者の人数については、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということでよろしいか。なお傍聴の方にはアンケートをお願いしており、協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に委員の皆様にもお伝えすべき内容については、後ほど報告させてもらう。発言者については、個人名を掲載せず委員とのみ表記することをご了承いただきたい。

　では、市民サポーターという議題につき事務局から説明願います。

●事務局

図書館では、基本目標において「図書館協議会や市民活動団体・市民等の参加や協力を得ながら『豊中市市民公益活動推進条例』等を踏まえ、より魅力的な図書館運営に努めます」と掲げており、長年にわたり子ども読書活動推進や障害者サービスなど市民協働の取り組みを進めてきた。平成２６年３月策定の『豊中市立図書館の中長期計画』（グランドデザイン）では、課題として「自立した市民が豊かに暮らすために、社会参画できる機会と場が図書館に求められている」とし、この課題に対応するため、図書館サポーター制度を２８のプラン（27）に取り上げている。具体的には「活動を通じて図書館への親近感、やりがいや生きがいを感じられる機会」や「図書館ＰＲなどの活動の機会と場」の提供を行うこととしている。

今後これまで進めてきた地域や市民協働の取組みとは異なる新たな形で、市民の社会参加の場作りや図書館を応援していただく方々を増やしていくため、個人参加による図書館サポーターの導入を検討し、来年度を目処に進めていきたいと考えている。

図書館での仕事を体験したことで図書館への理解を深めていただき、周囲の方々に伝えてもらうことで、図書館の理解者を増やしていきたい。ご議論いただいた内容を報告書にまとめ、導入に際しふまえるべき点など職員間で共有し、市民の方へご理解いただこうと考えている。

資料１の『豊中市立図書館の地域・市民との協働』は、各図書館の地域での市民との取組みのまとめである。図書館におけるボランティア活動は多様で活動分野、種類、内容、歴史、グループ名、必要知識や経験を表すように努めた。また、これらの活動は歴史、成立ちを踏まえたうえでボランティアの方々の講座受講等、自己研鑽が必要なものが殆どである。子ども読書活動推進関連と障害者サービス関連の活動については、豊中市では長い歴史があり、図書館事業の根幹を形づくっている意味でも重要なものである。比較的新しい事業としては「しょうないＲＥＫ」や文科省のモデル事業をきっかけとしてスタートした「北摂アーカイブス」があるが、どちらも先進的・持続的な事例として評価を受けている。図書館自身が地域の一員として活動に加わるもので年間を通し市民と関わる重要なものとして、地域教育協議会や市内各校区における活動がある。また、千里コラボで展開している事業についても、図書館も一員として加わっているのでここに含まれることになる。その他

のところは、「豊中図書館の未来を考える会」のように図書館運営に意見をもらい、合同の研修を企画実施する等図書館と関わり深い市民活動を掲載しているが、それぞれ性格の異なる活動となっている。

この資料１は、これまで取り組んできた地域や市民との協働と、これから検討議論していくものには違いがあることを確認・整理していただくためのものである。そういう視点から見ていただきたい。

続いて、資料２、『他市の住民参加の事例（中核市その他）』は、近隣自治体および中核市の事例を取り上げた。網掛け部分が中核市、右端※印のものが友の会的自主組織を表している。これらの一覧は中核市等に問い合わせたものでなく、インターネット上の情報をもとに作成した。網羅的に調査したものではないことをご了承いただきたい。また、この一覧には経験、研修が必要なものも掲載している。市立図書館では、これまでこのような形の個人で参加する事業は実施していないが、昨年、関連事業として庄内図書館・東豊中図書館で、「大人のための図書館の仕事体験ツアー」を実施した。具体的には、図書館業務の中から情報検索や本の装備体験および本を紹介するＰＯＰ作り等の活動である。

実際の参加者の声としては、「借りるだけでなく業務を体験でき楽しかった」や「本の整備作業は難しく図書館の仕事は大変さを認識した」、「作業は手作業であると知り、借りるだけではわからないことを体験できた」などであった。参加者へのアンケートとしては、今後の図書館での活動でどんな仕事をしてみたいか？という問いに、本の修理や書架の整理という回答があった。

●委員長

説明のあった市民サポーターとは何かから議論するしかないが、委員の方々の市民サポーターというものへのイメージ、どんなことが期待できるか？可能か？など意見を聞きながら、ある程度見えるものにしていきたい。事務局からの説明でいくつかキーワードがあったが、従来のボランティア活動で得た知識経験をグループの中でより高めて、さらにそれらを図書館でのボランティア活動の中で活かしてゆく、それが今までの活動だと思う。それに対し今の説明で「大人のための図書館の仕事体験ツアー」で参加者の声を考えると、グループでの活動でなく個人で参加し図書館の実際の業務と関わる、といったことも考えられる。私が図書館で働いてい

た時も、利用者がカウンター業務のみを職員の仕事だと思われたり、閉館後の業務は何している？と問われたりしたが、実際的に業務の体験で利用者としてだけでなく別の視点から図書館への理解を深めることができ、またそういう契機になるのではないか。図書館側からの市民へのＰＲも大事だが、図書館の業務を経験した利用者から他の方々への情報発信により図書館への理解を深める契機になるはずであり、事務局の説明でもそれが伺えた。

他市の図書館友の会のような例でなく、図書館側が市民に業務体験の機会を設けることがそうした契機を生んだのだと考えるが、他の委員の受け取ったイメージは違うものもあると思うのでそのあたりを議論していただきたい。活発な発言、議論を通して市民サポーターへの共通理解を形成していきたい。

●委員

市民サポーターのイメージが、いままでの市民協働活動や事業と異なる形になるということについての追加説明と、もうひとつは『豊中市立図書館の中長期計画』での文言、「自立した市民」を図書館側はどのようなものとして捉えているか、聞きたい。

●事務局

一つ目のご質問ですが、今までの市民協働は大切だと考えているが、市民が生きがいを感じられる場、そういう個人個人が交流できる場を作れないか、乳幼児から高齢者まで幅広く訪れる敷居の低い施設として、貸出利用だけではなく社会との関わりを持てる場を図書館で作れないか、知識の研鑽でなく自分の空き時間を社会貢献に役立てる場としても、図書館を利用できないか、そういった広い意味での図書館での利用の体験を、他の市民へ発信されることでの図書館への理解の深まり、そういったものを期待している。

二つ目のご質問ですが、「自立」という言葉の解釈は色々でしょうが、図書館側としては図書館も含めて市の活動に市民一人一人が積極的に関わっていける市民の形、ありようとして捉えている。

●委員

私が捉えていた漠然とした「自立した市民」のイメージと少し違いました。ありがとうございました。

●委員

小学校の立場でそのことを考えると、地域・市民との協働とか読み聞かせなどが学校と関わってくる。学校でも保護者の方にボランティアとして本の修理などに来ていただくことがある。その方たちも含め市民の立場でボランティアとして近くの公共図書館の体験をしたり、イベントの手伝いをする保護者が増えていけばいいと、資料を見ながら考えた。そんな大人たちを見て育った子どもたちも図書館への深い理解、活動参加への積極性が生まれるはずだとの期待を抱いた。

●委員

今の話から二つ、発言したいことがある。

一つは中学２年生の職場体験について、一般的に３日間というのは短くてもったいない。土日や夏休みに小学生を含めての職場体験に広めていくとか、子ども室のカウンターで体験学習の中学生が貸出業務をすることで本当の職業体験学習になるとかそういった広がりがあるのではと思う。

もう一つは、学校図書館を活性化させるために、私が今やっているのは本の貸し出しだけでなくイベントの会場として使うということで、最近は国立民族学博物館からブータンの民族衣装や教科書を借りて展示した。その時校長講話でブータンの話をして、その後２週間展示をすると皆が足を運んでくれる。こういったイベントをやる時、どうしてもサポーターの力が必要になってくる。多文化共生ならその方面に詳しい方を呼んでイベントをする。そうやって活性化できるのではないか。

●委員長

図書館の利用者が、図書館という場所で自分たちのアイデア・企画のイベントをやっていく中で活性化していく、とういうことですね。

●委員

就学前の子どもたちと保護者の話で市民サポーターとすぐに結びつくかわからな

いが、園で講師を招き絵本を読む会を実施したが、絵本読み聞かせが終わった後は、子どもたちも飽きるので各々絵本を手にしてもらい、その間保護者向けの話をすることが出来た。２～３歳児だと集中力もあまりないので、１時間ほどしか出来ないが、保護者から講師の話を聞きたいという要望がある。読み聞かせを通して子どもたちへの読み聞かせの方法を知ってもらうのが目的だが、保護者自身がもっと絵本というものを知りたいという話もある。子どもを連れているとそういう場にいく時間を持てない、保護者自身の本に対する欲求を満たせる機会があればと思う。

●委員長

図書館という場で、市民１人１人が自分の中の芽を膨らませていける活動をどう作っていくのかにつながっていくと思う。さきほどのイベントもその一つでしょうね。

●委員

これから図書館が目指す活動と従来のものとの違いとして、事務局から今までのグループではなく、市民一人一人が図書館を身近な場所としてコミュニケーションが出来る場のひとつとして考えていきたいとのことだが、体を壊し療養していた時期に話し相手を得る場があまりなく、この時期に誰かと関わることの重要性を実感した。そういう意味で図書館の存在はありがたい。病気でなくとも一人孤独で居る方も少なからずいると聞くが、一人でも参加でき何か人と関わりを持つことができる場が図書館にある、というのは非常にいいことだ。このことをその人達にどうやって伝えて行くのかとういうことも議論していく必要がある。市民サポーターは、個人で参加できるというところにメリットがあり意味がある。

●委員長

図書館というのは一人一人がやって来て何かができる場、他の施設のように明確な目的がなくとも集える場、その役割が図書館にはあると思う。市民サポーターの役割の一つとして、自分の居場所があることを認識してもらう、そういうことの大切さを図書館が担っていく必要もある。

●委員

資料を見ながら感じたことは、他市の事例を見て市民のためのものなのか、図書の装備などの作業は、ただ目の前にやってくださいと出されてしまうと、市民がしなければならないものなのか、本来は図書館がするべきではと？疑問に思えてしまう部分もある。

●委員長

私の知人がいる図書館の話だが、玄関の草が刈られて非常に綺麗で、聞くと利用者が誰に頼まれたわけでもなくやっている。そういった風に自分のやり方、考え方で図書館と自主的に関わりたい市民も確実におられる。価値観とか大袈裟なものでない市民一人一人の何気ない気持ちを活かす存在として図書館があって良いのでは。

●委員

大学で勤務しているが、学生達も図書館の市民サポーターとして参加できたらいいのにと感じた。学生達は就職活動やインターンシップ等で企業に行く機会はあるが、自分の親より上の世代と接することが極端に少なく、実際にその方々と接すると緊張してしまい、その方たちが何に関心を持ち、どう考えているのか、そういうことに想像が及ばない。若い世代が、高齢者など異世代と日常的に接することが出来る場としても図書館があると思う。学生という若い世代でも地域とつながりがもてる機会を得ることができる一つのきっかけになると思う。もう一点は、司書課程の授業を担当すると公共図書館で普通に提供されているサービスなどが、社会の変化より少し前のものが残っていたりして、図書館のロジックが利用者に見えにくくなっている部分がある。利用者目線からもっと意見がでると日常に密着したサービスにも役立つ。そういう面で図書館サービスを活性させる一つとして、市民サポーターという制度も考えられるのではないか。

●委員

これまでのボランティアの方々はそれぞれ達成する目標・使命があり、それがたまたま図書館という場であった。今議論している市民サポーターは図書館で活動し

たい、図書館に言われてではないが、手伝うことが間接的に生涯教育につながっている、図書館で手伝いすることが誇りになると考えている方々であり、自分の持っている生涯教育の考え方の刺激になると考える人だというイメージを持っている。具体例として災害のNPOをやっていて、自分は災害救援に行けないがそこの掃除をすることが救援をやっている人に役立つかもしれないことや、街頭で募金活動に立つとかの行動も頼まれてやるにしろ集めてくることが自分にできる最大限の災害救援になるという位置付けができた時、穴埋めではないという喜びがあると思う。キーワードとしては「やりがい」という言葉になると思うが、図書館での本の装備作業等は単調だけどだからこそやりがいがあるかもしれない。結果的にそうでなくとも自立した市民が自分自身で決めることが大事だ。

●委員長

今の話でボランティアと市民サポーターとの違いがよくわかった。
それぞれのグループが自分たちの目標・使命を持って社会に関わっていくのがボランティアととらえ、市民サポーターというのはそれと少し違う形で一人一人が自分なりのやりがいを求めている人たちであり、図書館はそういう人達に場を提供していく。ただ先ほど議論にあったイベントといった形に結び付けていくためには、図書館側で一定の仕掛けを考えていくことが当然求められる。単純に一人一人の人が図書館に来てなにかできる場を作ることも必要だが、それでよしではもったいない。図書館側がその場を作り一定の仕掛けをつくることで、図書館に行って関わりを持った方々が、それをきっかけにしてもう少し意味のあるつながりに広がっていけるのではないか、各委員の話を聞きながら市民サポーターについてそんなイメージを持った。

●委員

図書館に関心を持ってもらうとか、図書館に行ったらいいことがあったとか、いろんな思いを持ってかえってもらうとか、ちょっと図書館行ってこんなことがあって面白かったとかを感じてもらえるような図書館のあり方みたいなのを考えている。

学校の中でやっているのは、図書委員が休み時間に活動する時に、図書委員とは別にスタッフというか名札をつけて図書委員と一緒に活動が出来る仕掛けを学校の中でやっている。それと同じようなことを市民と出来ないのか。難しい部分も多いが、

ちょっと違う発想で図書館を見ていくと面白いのではないか。

●委員長

先に言っていた「やりがい」というのは、大きなものじゃなく図書館に行ってちょっと得した、ちょっと思いがけない体験が出来たと言うこともそうした中に入ってくると思う。市民サポーターという仕組みが、そうしたきっかけを作ることになればそれも一つのあり方になるのではないか。

●委員

全然違うことを考えているが、何で図書館に行くかというと、もちろん楽しいこともあるし、私が好きなのは結構静かだからだ。最近、阪大の図書館によく行くが、そこに行くと知的な感じがする。先ほどのイベントの話と相反することを言っているが、イベントも必要だし、やっぱり図書館の本来のあるべき姿というのは追求して、そこに行くとやっぱり安心感があることも必要ではないかと考える。

ミュンヘンに行く機会があり、週２回くらい大学図書館に行ったが、環境がすばらしいだけでなく一人あたりの閲覧スペースが広く、他方の日本の図書館はいろいろ本を読む場所があるけれども、狭くてぎゅうぎゅう詰めでゆっくり本を読めないというイメージを持っている。ゆっくりゆったり出来るそういう場も一方で図書館に求められている。市民サポーターの話とは違うが、そういう図書館作りも考えて行く必要があると感じた。

●委員長

これも全然違う話になるが、学生に公共図書館を見に行かせ観察したことを発表させると、閲覧席の多くを占めて新聞を長時間読んでいる方々が図書館で見受けられるとの話を聞くことが多い。その方たちと言うのは、会社を定年退職し仕事もリタイアしたいわゆる団塊の世代が、図書館に行って常に長時間過ごしているという。

たぶん、そうした人たちも新聞を読んで満足している人だけではなく、おそらくもう少し何か出来るきっかけ、選択肢があれば、委員の言われた空間に少し近い雰囲気になるかもしれない。多くの人が図書館に来館され利用の目的もいろいろあるが、図書館側から投げかけて一人一人の利用の形というのをもう少し膨らませるきっかけ

を作れれば、それも一つのあり方だろう。

●委員

市民サポーターという言葉にあまり馴染みがないので、ボランティアとの違いなどの議論を聞きながら勉強させていただいている。私がもしそういう立場で参加するとしたら、どんな立ち位置になるのかと思いながら聞いていた。積極的に図書館に関わりたいと思っておられる方はきっと、すでにある〇〇の会とか参加しているか、機会があれば受身の立場であってもこういう会があるならちょっと行ってみようかなと考えていると思う。図書館を一人で利用される方をどのように巻き込んでいくのか、またそういう方たちの居場所的なことが議論されていたが、市民サポーターの中でも最初に仕掛ける側というか、自分が積極的に入っていく側とそういう姿を見て誘われる側というふうに、同じ市民サポーターという言葉のイメージの中にも両方感じる。そこのところの住み分けというか、何かやりがいを求めてやっていきたいなと思う人のイメージと、なんとなく自分は自発的に参加するのが苦手だけれど、何か惹かれるものがあるので参加される方と両方あるではと考えている。

●委員長

今の発言はＰＲではなく、その活動自体をどう見えるようにしていくのかであり、イメージを広げていく上ですごく大事なことだ。楽しそうやな、面白そうやなっていう事をどう見せるか、という工夫も必要であると聞きながら感じた。

●委員

私も旅先の図書館が好きで、よくフィンランドに行くが、ヘルシンキに図書館が 2 つあり、そこの図書館は本当に日本の図書館とは比べ物にならないくらい居心地がいい。その理由として委員長の発言にもあったが、席を長い時間占拠する年配の男性たちはいなくて、すごく広いスペースで多くの若者が勉強や図書の閲覧をしている。座り心地のいい椅子もたくさんあり、その差は一体何なのかとすごく考える。私の勝手な想像だが、やっぱり男性は会社人間で定年退職すると居場所を求めて図書館でのんびり新聞でも読もうかなと考える方が結構多いのではと考える。ヘルシンキの図書館では若者がすごく積極的でそれこそ１０代後半ぐらいから２０代ぐらいまでたくさ

んの人が、学校のある時間帯にもいる、その違いも考えていきたい。その人たちを否定するわけではなく、毎日毎日来館される方々が新聞を読むだけでなく何か参加できるものをこちらで提案できればいいし、その方自身が提案出来ればなおいいと考える。図書館として提案する市民サポーターの内容をある程度提示することによって、あっ！これは自分にも出来そうだという人もいるだろうし、私はこんなことが出来るから、こんなことをしたいという要望を受け入れる窓口みたいなものがあればいいと思う。

●委員長

私の立場からいうと、北欧の国々と比較して、圧倒的に日本は図書館数が少ない。北欧の国に行ったら、数千人に一つ図書館がある、日本は大体４万５０００人に一つぐらいで、図書館数が少ないのでそういう人たちも集まらざるを得ない。それともう一つ、若い人たち、特に１０代の子どもたちを考えたときに、図書館でヤングアダルトサービスということをやっているが、単に子どもたちの興味のある資料を置くだけでなく、図書館がいろいろな場面で子どもたち自身が関わっているという仕掛けや仕組みを作っていく事が大事だ。図書館の行事については、図書館が場を設定するが、具体的に何をやるか、内容は自分たちで決めるというような形で関われる仕組みにすると、自主的に参加しているのだという気持ちになって結構楽しんでくれる。そうした仕掛けがなく単純にサービスを提供する、単に消費するだけでは興味を引き付けられない。たぶんそういった部分がうまく機能しているのではないかと考えている。

さっき議論に出ていた仕掛けを図書館側が全部作るのではなく、市民サポーターで参加していただく方がわいわいとやりながら、こうしよう、ああしようというような、かたちにしていく。そういう枠をうまく作っていけるかどうか、個人で参加していただく方々が、ちょっとつながりながら何かを作っていくことを、図書館がうまく支えていけるかどうか考えながら工夫していくべきところと思った。

●委員

皆さんの意見を感心しながら聞いているばかりで、自分の考えがまとまっていないが、居心地がいいから積極的に使うのではとの話だったが、図書館の機能として、知りたいことを知ったり、自分のやりたいことのために調べたりをする場所だと思う。

時間つぶしではなく、調べ物をしたり、楽しんで使ってもらえたらやっぱり違うのかなと感じている。

最近よく図書館が高齢者とかの居場所にと言われてきているが、ただ時間つぶしの居場所ではなく自分の知的な欲求を満たすことや、目的があっての居場所であって欲しい。そういうふうにつながる市民サポーター制度ならいいと思う。

●委員長

たぶん一つは図書館の資料の問題があると思う。読みたい本がなく新聞ぐらいしかないのが大きな問題。基本的には資料できちんとそうした利用者の興味をつかむ。それが出来ていなければ、なんや本ないな、新聞でも読んどこうかということになる。それが一番大事なところで、そこのところを抜きにしての今の議論はないと思う。

きちんと本来の図書館の利用があったうえで、なおかつそういった人達の気持ちを広げていけるような形。資料がいい加減なままで、読みたい本がないからこっちで活動しなさいではいけない。図書館の基本をきちんと踏まえて考えていくべきことだ。

●委員

アメリカのシアトルのパブリックライブラリーの新館は斬新な建物だが、シアトルの市民にあれをどう思うかという調査があり、図書館は使わないけど、そこに図書館があるのを非常に誇りに感じている人が多かったのが興味深かった。

欧米、まぁ北欧とアメリカもそうだと思うが、自分たちの「モノ」であると意識があって、図書館を使う、使わないの判断は利用者だが、やっぱり究極的には豊中市民の皆様に、図書館は自分たちの「モノ」であるという、そういう意識を高めていく、その一つのきっかけとして市民サポーターがあればいいと思う。居心地がいいということもやっぱりそういうところにつながっていくと感じる。利用者の方が図書館に対して、いままでは行政で用意したものを使うという意識から、図書館は自分たちの「モノ」であるというところを、こういう市民サポーターを通じてうまく醸成できたらいいなと、今思った。

●委員長

いろんな図書館を見ているが、そういった意味で豊中の図書館というのは、市民か

らは愛されているとまではいかないが、一定評価されている図書館であることは、これまでの活動も含めそうした形の仕事をしてきていると思う。それをよりいろいろな方々に広めていく、市民サポーターという形で図書館の仕事を知ってもらう中で理解を深めてもらうことで、市民に広がっていくようになればと思う。そうすることにより「うちの図書館は」という形で、市民の方たちがいろんなところで図書館の話をしてくれるきっかけになってくれればと考えている。

●委員

サポーター制度というのがうまく機能すれば、市民一人一人が参加できるいい場になると思う。さっき委員長の発言にあった図書館を通じて社会参加できるような場になればいいが、その仕組みをちゃんと作っていただいて、市民サポーターがボランティアの安使いにならないようにきちんとした仕組みの上で、市民の気持ちをうまくかたちにできるような場になっていけば、とてもいいものになると思うのでこれからも応援させていただきたい。

●委員長

多分そこの歯止めになるのが個人参加で、きちんと踏まえておくことが大事だ。あくまでこれは個人での参加で、グループで参加したりすると横の人と今日は行かないのかという話になり、どうしても強制になってしまう。それが結果として図書館側から見れば、今おっしゃったように自分たちの仕事の足らないところを、無料の労働力で埋めていくのにちょうど都合がいいとなってしまう。しかし、これをきちんと個人参加という形で位置づけておけば、歯止めになる。

そして、おもしろくない、なんか疑問に思うとなれば行かなくてもいいわけで、そういう形で市民サポーターは、個人がさっき言った自立した市民として参加する・参加しないを、自分がきちんと判断して、やっていく。決して強制されるものではない。その時に自分にとってプラスでもないし面白くもない楽しくもないというふうに、自立して判断されればまったく行かなくてもいいという形にしておくことが、今おっしゃったことの１つの歯止めになると思う。たしかに最初に説明を受けた資料の住民参加の事例を見ると、何が載っているのかとの思いもあるが、どんな活動であってもそれが一人一人の市民の方、利用者の方が自分で判断して自分でそこに加わるというこ

とであれば、決して図書館側に都合のいいというものではない。あくまで一人一人の利用者、市民として自分の判断でそれを行うかどうか。当然こんな作業は図書館がやるべきだ！ということを市民の方々が言われたらそれは当然消えてしまうであろうと思う。それを担保するのが個人参加という歯止めをきちんとかけるということだろうと考える。

●委員

振り出しに戻る話で申し訳ないが、図書館でボランティアスタッフという取組みはあるか。無償で働いてくれる人で、仕事の内容は同一で責任もあるという人だ。その辺のＮＰＯにはいるが、それがどうも不思議でたまらんと言われることがある、本人はやる気満々で「いいんです」と別に給料もらってないだけで、そこを抜いたら職員ではなく、責任をもたされないとなるが、本人はそれでいいという。何が違うかというと、いい面でいうと正職員の方は、なんでこれを給料もらってやってるんだと考えることで刺激になってくる。また、どうして無料でもやってくれるんだろうと考えていく。うまく働ければそれもいいのかなと思う。

ＮＰＯでも小さいところだと、払えないからそういうことになっているときもあるが、やりがいがあるから来ているといわれた時に、給料を何とか払いますと言ってもいらないという。話に出ていた新聞を読んでいる年配の男性の人たちも、そんな仕組みを作れば、やりがいをもってやってくれるのでは、と思う。

本日検討することはそれではなく、だから振り出しに戻るみたいになるが、市民サポーターというものに定義はないとすれば、それを違う面からいうとただ働きさせていることになるし、本来やるべき事業を市民に押し付けているというふうにも見える。でも実態は一緒かもしれないとなるとどういうふうに整理したらいいのか難しいところだ。ちょっと振り出しに戻ってしまう議論になり申し訳ない。

●委員長

そこに参加している方の気持ちに落ち着いてしまうだろう。だからそれがやりがいであればいいのでは。それが決して図書館側から求めたり強制したりといった類のものではないという事だけは押さえておく必要がある。私も含めて委員は言いたい放題発言して、全然違った話がいっぱい出てきた。今の話で、委員が振り出しに戻してく

れたが、これは違うな、こういうふうにしたらこういう展開があるなど、なんとなくイメージが共通で持ててきたような気がする。次回の協議会までに事務局で、今までの議論を書き出し整理したものを、各委員に送付してください。

次回の図書館協議会において、それらを踏まえ豊中における市民サポーターとは何か、その可能性といったものをまとめていきたい。その時には、当然歯止めというか、やるべきこと、やってはいけないことを含めきちんと議論を深める形にしていきたい。

●委員長

それでは、議題に上がっている他の案件について事務局からご説明ください。

●事務局

ご報告も含めていくつかの資料を説明させていただく。

資料３の平成２６年度「豊中市立図書館中長期計画」グランドデザイン進捗状況一覧表については、昨年度と同様平成２６年度の振り返りを図書館の地域館の副館長および分館分室の施設長を中心に行い達成状況を確認した。今年度についても優先して取り組んでいくプランも明記しているので報告させていただいた。

また、資料４の知的探求合戦「めざせ図書館の達人」について、今年度で４回目を迎える事業で小中学生が４人程度のグループとなって休館日の市立図書館で図書や新聞雑誌を利用して１つのテーマにそって発表するもので、昨年は４館合わせて小学４年生から中学 1 年生まで合計３２グループ１２２名の参加となった。今年度も岡町・千里・高川・野畑の４館で平成２７年（２０１５年）７月３１日金曜日に実施し後日調べた内容の報告会も予定である。

さらに資料５の「夏休み学習サポート in 高川図書館」については、高川図書館が仮称「南部コラボセンター」のサテライトに位置づけされていることから地域の課題解決をめざし前倒しで取り組んでいくことで、学習支援のモデル事業を行う。南部連携支援センターと高川図書館の共催で教員を目指す大学生が講師となり、近隣の小学生のため夏休みの学習の場を設定します。昨年度は庄内公民館で実施し５日間で延べ４１３人の参加となり、今回は高川図書館も合わせて行う。

次に資料６ブックスタートニュースレター№48「行ってきました大阪府豊中市」の記事だが、ブックスタートは乳幼児の健診の際に絵本を通して赤ちゃんと保護者が触

れ合う時間をすごすきっかけつくりを目指す事業で、行政と市民がともに地域で子育て支援を応援することも伝える場になっている。この事業を全国的にサポートする団体のNPOブックスタートが、中部保健センターで取材を受けたときの内容をまとめた記事である。ほぼ一日かけて岡町図書館障害者サービスなども含めて取材をうけ、同協会ホームページにも同内容が掲載されているので報告する。

あと一点、こちらは本日配布する資料はないが、仮称南部コラボセンターの関連の事業として南部の図書館がどんな図書館があればいいのか、どういう機能を持たせばいいのかという事を市民が自由に井戸端会議的に話し合うラウンドテーブルを行う予定である。今までは南部地域連携センターの主催でラウンドテーブルを行い、たとえば乳幼児の保護者が集まる場や小中学生の保護者などいろいろな切り口で実施してきたが、今回図書館をテーマに開催することになった。テーマは「図書館の未来、魅力ある図書館作り」という事で様々なご意見をいただく予定である。日時は９月３日の木曜日午前１０時から１２時庄内公民館で行い、図書館に感心のある方なら誰でも参加できる。

報告案件は以上である。

●委員長

今の事務局からの報告で、なにか質問とか意見がありますか？

●委員

「グランドデザイン」の進捗状況の一覧表を前もって送付いただいたが、これに優先順位ABCとついているが、どういう優先順位かどういう基準でついているのが説明願いたい。

●事務局

もともと２８のプランは、大人へのサービスを中心に図書館がこれから行うことをすべて盛り込む形になっている。限られた時間と人材の中で事業に取り組むことから、たとえば、今回自動貸出機が入った等、状況を勘案しながら中心的に取り組んで行くものを決めている。また、地域館の館長たちだけが決めるのではなく分館および分室の館長や現場にも関わる副館長たちも含め、どこに力を入れて取り組みを進めて行く

のか、優先順位をつけて決めており、力を入れていくプランそのものが重要なわけではない。

２８のプランはどれも「グランドデザイン」終了までに一応の達成をめざした目標ではあるが、長期にわたるものであることから、この１年についてはこれらの取り組みを重点的にやり、それが一定達成したときに次はこれに取り組むという形で考えていくことになる。

●委員長

ようするに全体の目標があって、そのタイムテーブルの中で今年度優先すべき課題ということですね。別の図書館の評価をやっているが、項目が多すぎるという話になり、あまりたくさんの項目を作ると結局なかなか全方位的になってしまうので、ポイントはなるべく少ないほうがいいのではという議論になったことがあった。

未来の会の配布物があるが、活動の紹介をお願いする。

●委員

「豊中図書館の未来を考える会」でパンフレットを配布している。今回の議案にも関わるが、この会は２００４年発足だが、その前からずっと図書館について取り組みをしている。学校図書館を考える市民の会と一緒になったりしながら今日に至っている。この会に入会してまだ日は浅いが、大阪府の子ども文庫連絡会に参加することもあり、その中で豊中というとすごく注目されている。しかし、私自身は家庭文庫で活動したり、読み聞かせとかいろんなことを行ってきたが、図書館の取り組みについてあまり知らずにきたので今一生懸命勉強しているところだ。

●委員

「グランドデザイン」の資料は、送付していただいたものと同じだと思うが、資料の作り方で１つ提案がある。ページを開いても見えにくい所があり、会議の資料についてはうまく見られるという資料の作り方をしてください。

たとえば図書館の使命と理念や基本目標の部分は、止める側に空欄が少ない。資料の作成をよくするので非常に気になる。見る人目線でやってもらえたらと思う。報告書もすごく字数が多い。書きたいことが多くあるという気持ちはよくわかるが、もっ

と端的に書いてもらえればありがたい。

●事務局

利用者目線という事とは、こういう事だということが身にしみて、よくわかるご意見をいただいた。そのことを参考にして、今後の資料つくりに取り組んでいきたい。

●委員長

ぜひ今度からいい資料を作ってください。

●委員

２６年度の報告書で案となっているのは案ということでよかったのか？

●事務局

最新の「図書館活動」を編集中で、この中のものを抜粋して市民の方に公開する形になるので、今の段階では案という形にさせていただいた。編集上のこととかお気づきの点があれば事務局の方にお伝え頂ければ、また検討させていただく。

●委員長

この件は、私の方で最終的に確認させていただいて、それで協議会の承認という形になっていたと思う。とりあえずその部分についてはこれで最後とさせていただく。

今日は本当にいろいろと貴重な意見をありがとうございました。以上で平成２７年度第１回豊中市立図書館協議会を閉会する。